

令和2年度予算編成方針

我が国の経済は、緩やかな回復基調が続いているものの、先行きについては、海外経済の動向や金融資本市場の変動の影響に加え、消費税率引上げ後の動向に留意する必要がある。

このような状況下、令和2年度の国の地方財政への対応は、地方税収の増を見込む中で、前年度を上回る地方交付税総額を確保することにより、地方の一般財源総額についても前年度を上回る額が確保されている。本市でも経済は緩やかな持ち直しが続いており、市税収入も一定堅調に推移する見通しである。一方、豪雨災害からの一日も早い復旧・復興、子育て・教育環境の充実や防災・減災対策、松山圏域の中心都市として必要な公共投資などの重要課題とともに、社会保障関係経費の増や公共施設のマネジメントなどの財政需要の増加にも的確に対応する必要があるため、厳しい財政運営が見込まれる。

こうした状況だからこそ、常に前向きに挑戦する気持ちをもって、第6次総合計画に掲げる将来都市像「人が集い 笑顔広がる 幸せ実感都市 まつやま」や公約の実現を引き続き力強く推し進める必要がある。

そこで、令和2年度の予算編成に当たっては、ゼロベースで事業の総点検に注力するなど、持続可能な行財政基盤の整備を進めるとともに、5つの柱からなる公約の具現化を着実に進める。

①「子育て環境を充実し、子どもたちの未来を応援する松山」では、子ども医療費助成をはじめ、子育て環境と教育環境の充実、妊娠・出産の支援、幼児教育・保育の無償化への対応等、**②**「誰もが自分らしく、いきいきと暮らせる松山」では、健康寿命の延伸、ことば文化の発信、スポーティングシティまつやまの推進等、**③**「みんなで助け合い、安心して暮らせる松山」では、島しょ部の医療体制の堅持、災害に強いまちづくりの推進、新規水源の確保策の検討等、**④**「元気な産業を応援し、成長する松山」では、農業施設等の災害復旧・復興、中小企業の人手不足対策、道後温泉本館保存修理工事の影響緩和、インバウンド対策等、**⑤**「自分たちのまちに愛着や誇りをもち、住み続けたい松山」では、環境に配慮したスマートシティの推進、商店街等の活性化、市駅前広場やJR松山駅周辺整備の着実な推進等に取り組む。

また、市民課の総合窓口センターをリニューアルするほか、学校や公民館の公共施設マネジメントを推し進めるなど、それぞれの分野での施策の遂行に配意した予算編成とした。